

## 千葉県社会福祉審議会老人福祉専門分科会 意見等

## 課題 1 カリキュラム

各学園の地域の特性を考慮するとともに、IT化の進展や環境問題などの社会の変化や高齢者のニーズ及び有料化に見合った魅力ある内容とするため、学科、定員、カリキュラム、開校時間、講師等について検討が必要です。

また、講義内容の評価及びニーズの把握が必要です。

## 【意見】

- ・受講生から提出された授業内容についての評価をカリキュラム作成にあたって参考にする必要がある。
- ・各地域で選択科目というのもいいが、ばらばらになってしまう。
- ・千葉県生涯大学校としてやるべきこと、例えば千葉県の歴史や文化、民話など「房の国講座」などは全員学習する必要があるし、そういう特色になる部分はたくさんある。
- ・座学が中心で、実践の場が不足している。
- ・地域と交流しながら地域のためにどう生きるかというところに視点をおいたカリキュラムにすべき。
- ・地域性に合わせ個別性を尊重する仕組みを考える必要がある。

## 課題 2 社会活動の参加の場等への活用

卒業生（団体）・市町村・社会福祉協議会・老人クラブ・NPO・ボランティア団体・大学等地域の関係機関・団体との連携を強化し、講師、社会活動等の実習の場、卒業後の社会活動の参加の場等への活用を検討する必要があります。

## 【意見】

- ・費用対効果の面と地域住民や老人クラブ、社協、NPO等との連携を図りながら内容を充実させる。地域活動に参加している卒業生を講師として活用するなど、卒業生の地域活動の場となることも一つの方法ではないか。

### 課題3 設置目的

開校から30年以上が経過し、社会環境が大きく変化している中で、県が将来のあり方を見据えた上で、県が運営する意義、設置目的などを見直していく必要があります。

#### 【意見】

- ・理念・目的をきちんとした上で理念に基づく授業内容は県の方針で決めておいて、それ以外のところで市町村との役割分担を検討する必要もある。理念に基づく授業と地域的な個別性を尊重した部分が融合したような仕組みを作る必要がある。
- ・生涯大学の理念の明確化が必要。カルチャースクールとどう違うかをはっきりさせる必要がある。趣味はカルチャースクールへ行けばいい。
- ・コミュニティー活動のリーダーとか指導者になるような人がここから数多く出ていくというところに生大の狙いがあると考えていくべき。しかし、地域のリーダー的な者を育成する役割を担う福祉科等が全学園とも応募が少なく、趣味的な陶芸、園芸が非常に多い。地域の指導者を育成するという線は外すべきではない。
- ・千葉県高齢者保健福祉計画と連動して、その目的に沿った人たちを養成していく。自分の健康の維持と同時に、他の人と一緒に地域をつくっていく役割の一端を担う、という意識が持てるようなものにする。
- ・地域貢献、地域活動に役立つリーダーの養成というのは、役目が重すぎてかえって敬遠されるような気がする。

### 課題4 休講日の利活用

本校舎について、教室の休講日や休講時間等の利活用の方法について、地元市町村・社会福祉協議会・老人クラブ・NPO・ボランティア団体等地域の各機関・団体等と連携し、検討する必要があります。

なお、本校舎以外の校舎（園芸科）の活用についても検討する必要があります。

### 課題5 通信課程

昭和50年の開校当初は、通信課程へのニーズは高かったが、各地域に学園が設置されたこと、放送大学等の整備が図られたことなどにより、通信課程の設置の意義等について検討する必要があります。

## 課題6 指定管理者制度の活用

指定管理者制度の導入後も組織体制や学習内容等は、基本的には従前からのものを踏襲している現状にあるため、当該制度の十分な活用について検討する必要があります。

### 【意見】

- ・ 地域の特性を活かして学園単位の委託はできないか。
- ・ 全部県が作って運営だけ任せますという指定管理者はどうなのか。指定管理者が努力して工夫をすれば、利益は増えるという仕組みにすべき。

## 課題7 効率的な運営

生涯大学校の管理運営経費について、学生1人当たりの経費が比較的高くかかっており、また、管理運営経費に占める人件費の割合が多いことから、効率的な運営について検討する必要があります。

### 【意見】

- ・ 効率的な運営をするには教室が分かれている。県の施設としてニーズに応じた規模にすべき。学科の統合を中心に、休校・廃校を含めて考えていかなければならない状況にある。